



新発田北蒲原医師会

新発田北蒲原医師会

副会長 信 田 和 男



急速に進行する高齢化社会、地域格差の拡大、コロナ禍で浮き彫りになった様々な課題など、医療を取り巻く環境は大きく変化しています。特に高齢化が進行する中、医療制度の限界が浮き彫りになり、医療サービスの質にも大きな影響を与えています。

医療制度の限界の要因として、医療従事者の不足、無医村や地域格差の拡大、医療費の上昇、医療資源の枯渇などがあげられます。

医療従事者の不足は、日本の医療の基盤を揺るがす重要な問題であり、特に医師や看護師の不足は深刻です。医療従事者が足りないために残ったスタッフには過度な負担と長時間労働が日常化しています。

地域格差の拡大においては、都市部に医療資源が集中する一方、地方や過疎地域では医療サービスが十分ではありません。医療資源の偏在により、地域ごとに医療サービスの質に大きな差が生じており、この格差が地方の人口流出を助長し、さらなる過疎化を引き起こしています。医療従事者の不足やサービス需要の不均衡は、医療費の上昇につながっています。

医療資源の不足は、長期的に見ても非常に重大な問題です。医療従事者や設備が不足していることが続くと、病院経営がさらに厳しくなり、特に地方の病院にとっては閉鎖のリスクが高まっています。限られた資源で多数の患者を治療することにより、医療サービスの質が低下する恐れがあります。その結果、提供される診療の質の保証が難しくなりつつあります。

これらの課題は、日本の医療システムに強く関連しており、迅速な解決が求められています。多面的なアプローチが不可欠な状況にあり、今後の医療業界の持続可能性を考える上で、これらの問題への取り組み方がカギとなるでしょう。

当地域でも高齢化の進展に伴い、慢性疾患への

対応や在宅医療の需要が増加しており、医療と介護の連携がこれまで以上に重要となっています。当医師会としても、地域医療の維持と発展を目的に、行政および関係機関と連携し、それぞれの専門性を生かしながら日々の診療や医師会活動に取り組んでおります。

【令和7年10月までの会員動静】

- ①会員数 186名（A会員92名3名減、B会員92名1名減、D会員2名2名増）
- ②会員訃報 富田哲夫先生（令和7年4月10日）、伊賀敏朗先生（令和7年9月1日）、星野邦夫先生（令和7年9月19日）
- ③役員人事
会 長：佐々木亮
副会長：平塚雅英、松澤眞、信田和男
理 事：藤森勝也、池滝勝史、田中典生、樋口健一、須藤正二、中川巖、山崎恒、花野伸一、富田雅俊、東谷正来
支部長：新発田支部 渡部憲一、阿賀野支部 本田吉穂、胎内支部 橋本敏之
- ④新規開業・管理者交代
新規開業：内科・循環器内科 かねこ医院 金子順二先生（令和7年9月11日）
- ⑤病院長異動
・新潟手の外科研究所病院 幸田久男先生（令和7年7月1日）
・新潟聖籠病院 土屋嘉昭先生（令和7年7月1日）
- ⑥閉院
・金原医院（令和7年5月31日）
・渡部レディースクリニック（令和7年6月30日）
・中野こども医院（令和7年8月31日）
- ⑦会員慶祝
・佐藤幸一先生 新潟県知事表彰（学校保健功労）令和6年11月3日